2021年度岐阜県演劇大会　一日目　５校目　　≪講評文≫

加茂高校 『晴れ、ときどき悪魔』

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽

初めに。私はこの学校のこの劇が大好きだ。講評文を書く役が回ってきたのは運が良かったからで、その喜びをこの講評文にめいっぱい記そうと思う。

部員を5人集めないと廃部になってしまうオカルト部。諦めていた部長の前に悪魔が姿を現す。「私が君を助テアゲル」願いを叶えてくれる部長に惹かれ入部した一年生と共に、部長は憧れの人に会うべく年に一度ある「オカルトチキチキドンドン召喚大会」に参加。そこで優勝し憧れの人と話せたことで舞い上がっていたのは部長ただ1人で、事あるごとに願いを叶えようとしてくれない部長に部員たちの不満は積もっていった。こうしてまた一人ぼっちになった部長にかかっていた、悪魔の術が解かれる。時が戻り部長は、次は悪魔の力ではなく自分の力で部員勧誘を始めた。「オカルト部、入りませんか！」

この上演を終えた加茂高校に一つ賞を捧げたい。「YAMINIMAYOISHIMONO賞」某アーティストのようなおしゃれチックで独創的な賞だが、まさにその通りで、舞台という悪魔に取り憑かれた全てのキャストたちは、細かなところまで演技ができており、小悪魔に洗脳されるシーンでは、音響とキャストの闇に迷いし努力の結晶による完璧なタイミングで、悪魔が召喚できていた。まるで悪魔が踊っているような滑らかな動作と独創的な言葉の魔力で、観客ともども巻き込んだ。それくらいの舞台なのだから、2回目の鑑賞でもやはり面白い。実を言うと、私はこの劇がもう一度観たくて頑張って遠いところまで足を運んだようなものだ。それくらい一度は観ていただきたい舞台だ。

またこの劇を見るにあたって、誰にでもある秘められた心の内を感じることができた。貪欲、傲慢、憤怒、嫉妬。誰もが感じたことにある感情で、誰もが隠したい感情であるだろう。それを表に出すということはどういうことなのか、また出さないということもどういうことなのか。理解できたのではないだろうか。そして何が一番人を傷つけ苦しめるのか。爆笑の渦の中に垣間見えた、人間の闇が私たちの心に刻まれたであろう。

見た目16歳中身80歳の私でも楽しめた素晴らしい演劇でした。

加茂高校の皆さんお疲れ様でした。

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽